

2. 婦人科外来での検査

I. 感染症の検査

1. 膣カンジダ症, 膣トリコモナス症
2. クラミジア頸管炎

婦人科感染症の中で、性感染症（Sexually transmitted disease STD ; Sexually transmitted infection ; STI）として増加傾向にある。その感染経路は、外陰、膣、子宮頸部・体部、卵管、卵巣、骨盤内に至る。クラミジア頸管炎を放置しておく、骨盤内炎症性疾患に進展し、治療を要することがある。

1. カンジダ膣炎, トリコモナス膣炎

	カンジダ膣炎	トリコモナス膣炎
帯下	+	+
掻痒感	+	+
帯下の性状	白色、ヨーグルト様、酒粕様	淡黄色、泡沫状
病原	真菌 (Candida Albicans)	原虫 (トリコモナス原虫)
検査	塗抹・鏡検にて菌糸、培養・同定	塗抹・鏡検にてトリコモナス原虫の同定
膣pH	<4.5	>4.5
アミン臭	なし	時々
治療	イミダゾール系抗真菌剤	ニトロイミダゾール

2. クラミジア頸管炎

STIの中で最も高頻度である。

	クラミジア感染症
症状	無症状のことがほとんど。時に、漿液性頸管浸出液、不正出血。 尿道炎を併発すると排尿障害を伴う。 骨盤内腹膜炎を引き起こすと、腹痛が主訴となる。 肝周囲炎により右上腹部痛 (Fitz-Hugh-Curtis症候群) を起こす。
感染経路	(表1)
病原	Chlamydia trachomatis
検査	子宮頸管擦過検体を用いたPCR法によるDNA検出 血液中のIgA、IgG抗体の検出
治療	マクロライド系、ニューキノロン系、テトラサイクリン系

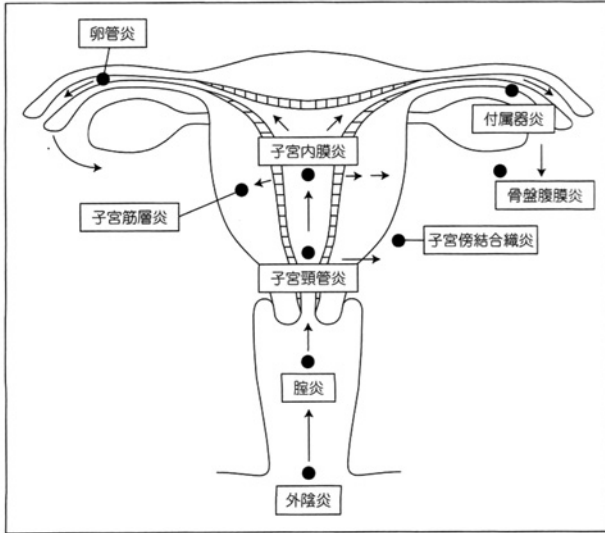


図 1

肝周囲炎
 ↑
 骨盤腹膜炎
 ↑
 卵管炎
 ↑
 子宮内膜炎
 ↑
 子宮頸管炎 ⇔ STDとして感染